

評価問題例

○ゆうやさんのクラスは、社会見学でスーパーマーケットに行きます。クラスの人数は32人です。

題意をしっかりと読み取らせ、既習の問題がしっかり理解できているか確認する。

①同じ人数ずつのグループにわかれて見学します。あまる人がでないようにグループをつくるには、1つのグループを何人にすればよいですか。□ からあうもの全てをえらんで、○をつけましょう。

4人 ・ 5人 ・ 6人 ・ 7人 ・ 8人

○クラス全員が、長いすに5人ずつすわって、店長さんの話を聞きます。ゆうやさんは長いすの数について、つぎのように言っています。

ゆうや「長いすが6つあれば、全員すわることができるね。」

②ゆうやさんの言っていることは正しくありません。□にあてはまる式や数を書いて、そのわけをせつめいしましょう。

長いすの数をもとめる式は□で、答えは□あまり□になります。長いすが6つでは、□人すわることができないので、ゆうやさんの言っていることは、正しくありません。

誤答の説明をすることで、余りの処理の仕方を考えさせる。

③長いすがいくつあれば、全員すわることができますか。()

評価問題のポイント

※実生活において、グループを分けるとき、何人にするのかを考えたり、全員座るためのいすの数を考えたりする場面は、たくさんある。いろいろな場面で、判断できる力を付けていく問題である。

問題①について

・わる数が複数あることに気付くことができる。

今までは、「クラスの人数が32人で、8つのグループを作るには、1つのグループを何人にすればよいのか。」という学習であったが、この問題ではわる数が決まっていない。選択肢の中から、複数の答えがあるので、それを見付けられるかがポイントとなる。

問題②について

・余りを切り上げる問題であることが分かり、余りの処理の仕方を考える。

ゆうやくんは、余りを切り捨てて、答えを出している。その誤答に気づき、正しい余りの処理の仕方を説明できるかがポイントとなる。